別表第3

鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票

(表面)

Ⅳ 学校種別	Ⅴ 整理番号

Ⅰ 調査学校	都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日			Ⅲ 結果点数	
					調査者	職名	建築士登録番号	氏名	Ⓐ構造耐力	耐力度
								㊞	点	Ⓐ×Ⓑ×Ⓒ
									Ⓑ保存度	

Ⅱ 調査建物	建物区分	棟番号	階数	面積		建物の経過年数		被災歴		補修歴			
				一階面積	延べ面積	建築年	経過年数	状況	被災年	内容	補修年		
			＋	m²	m²	明治 大正 昭和 平成 年	年		明治 大正 昭和 平成 年		明治 大正 昭和 平成 年	点 Ⓒ外力条件	点

| Ⓐ 構造耐力 | | | | | | | | |

③ 基礎構造 β	種別指数 u	形状寸法	鉛直荷重 P	支持力 Ra	耐力指数 β	判別式		評点	
	木くい：0.8				β＝Ra・u／P	β≧1.0	1.0	㋕	㋖(㋕×20) 点
	RCくい：0.9					1.0＞β＞0.5	直線補間		
	その他：1.0					β≦0.5	0.5		

④ 構造使用材料	粗骨材（砂利）			細骨材（砂）			評価	評点	
	川(山)砂利	塩分を含んだ砂利	軽石	川(山)砂	塩分を含んだ砂	軽砂	粗骨材 細骨材 ( )＋( ) / 2	㋚	㋛(㋚×20) 点
	1.0	0.9	0.8	1.0	0.9	0.8			

Ⓑ 保存度

① 経過年数(残存率T)	経過年数t	判別式						評点		評点合計
	年・	T＝・ (47 - t)／47						㋐・	㋑(㋐×30) 点	

② コンクリート中性化深さ及び鉄筋かぶり厚さ	ⓐ コンクリート中性化深さ a	部位	柱1	はり1	柱2(壁－1)	はり2(壁－2)	平均値a	判別式		評点
		中性化深さ						a≦1.5cm	1.0	㋒・ ㋓(㋒×15) 点
								1.5cm＜a＜3cm	直線補間	
								a≧3cm	0.5	
	ⓑ 鉄筋かぶり厚さ b	部位	柱頭	柱脚	はり1	はり2	平均値b	判別式		評点
		かぶり厚さ						b≧3cm	1.0	㋔ ㋕(㋔×10) 点
								3cm＞b＞1.5cm	直線補間	
								b≦1.5cm	0.5	

③ 鉄筋腐食度 F	部位	柱			はり			グレード平均値F	評点	
	状況									
	グレード	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5		㋖・ ㋗(㋖×15) 点	

④ 不同沈下量 φ	階	相対沈下量ε		スパンL		φ＝ε／L		φの最大値	判別式		評点
		けた行方向 X	張り間方向 Y	けた行方向 X	張り間方向 Y	けた行方向 X	張り間方向 Y				
									φ≦1／500	1.0	㋘ ㋙(㋘×15) 点
									1／500＜φ＜1／200	直線補間	
									φ≧1／200	0.5	

⑤ ひび割れ C	部位	柱			はり			壁			床			グレード平均値C	評点
	状況														
	グレード	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8	0.5		㋚ ㋛(㋚×15) 点

⑥ 火災による疲弊度 S・	程度・	構造体変質	非構造材全焼	非構造材半焼	煙害程度・	当該階の床面積so	被災率s・	判別式		評点
	被災床面積	s1	s2	s3	s4		S＝st／so	S＝0	1.0	㋜
	評価後被災面積 st	st＝s1＋s2×0.75＋s3×0.5＋s4×0.25						0＜S＜1	直線補間	
								S＝1	0.5	

Ⓒ 外力条件

① 地震地域係数		② 地盤種別		③ 積雪寒冷地域		④ 海岸からの距離		評価		評点
四種地域	1.0	一種地盤	1.0	その他地域	1.0	海岸から8kmを超える	1.0	Ⓒ＝ (①)＋(②)＋(③)＋(④) / 4 ＝ ( )＋( )＋( )＋( ) / 4		Ⓒ
三種地域	0.9	二種地盤	0.9	二級積雪寒冷地域	0.9	海岸から8km以内	0.9			
二種地域	0.85									
一種地域	0.8	三種地盤	0.8	一級積雪寒冷地域	0.8	海岸から5km以内	0.8			

＊コンクリート強度が著しく低い場合

Ⓐ 構造耐力

同一階6本以上のコア圧縮強度の平均値が10N／mm²以下の場合の構造耐力	壁・はり1	壁・はり2	壁・はり3	壁・はり4	壁・はり5	壁・はり6	平均値Fc	k＝Fc／20	判別式		評点	評点合計
									k≦0.5	0	㋝ ㋞(㋐×㋑×㋒×㋝×50) 点	㋞＋㋟＋㋠＋㋡ Ⓐ 点

(裏面)

学校名	

	調 査 者 の 意 見
1　調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は他と区別できるような太線とする。 2　寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。 3　平面図に、圧縮強度、コンクリート中性化深さ、鉄筋かぶり厚さ、鉄筋腐食度の測定位置を記入する。 4　余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。	